

市民のみなさまへ

岡山市浸水対策基本計画（改訂案）に関するパブリックコメントの結果について

標記の浸水対策基本計画の改訂案についてパブリックコメントを実施した結果は下記のとおりです。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

記

1. 意見募集の概要

(1) 意見募集期間

平成31年1月10日（木）から平成31年2月8日（金）まで

(2) 基本計画素案の閲覧場所

- ・下水道河川計画課（市役所分庁舎5階）
- ・情報公開室（市役所本庁舎2階）
- ・各区役所（総務・地域振興課）、各支所（総務民生課）、各地域センター
- ・本市ホームページ

(3) 提出方法

電子メール、ファクシミリ、郵送又は直接持参

(4) 提出先

岡山市下水道河川局下水道河川計画課

2. 意見募集の結果

(1) 意見提出者数 6名

(2) 意見数 23件

※複数にわたるご意見をいただいているため、意見提出者数と意見数は一致していません。

3. 意見の概要と意見に対する市の考え方

別紙のとおり

意見の概要と意見に対する市の考え方

No.	意見の概要	本市の考え方
1-1	農林排水機場の電気設備は、河川が氾濫した時に浸水しない設計になっているか。また、運転員が到着または遅れた時は大丈夫か。	市内の農業用を含む排水機場の多くは、河川氾濫等の外水災害時に完全に浸水被害を防げるような設計にはなっていません。 河川が氾濫するような事態を避けることが第一ではありますが、7月豪雨災害などを教訓に、排水機場の浸水対策や運転員の安全対策等の検討を行ってまいります。
1-2	高松地区の農林排水機場のポンプ排水量にもっと余裕を持たせ、足守川の水位を見ながら運転を調整できる様にしてほしい。足守川の整備計画を早めてほしい。	農業用排水機場の排水機能の強化につきましては、その設置目的等から困難ですが、別途対策を考慮し検討する必要があると考えます。一方で、河川水位の関係で現状の機場能力を最大限発揮出来ていない状況であることから、県に足守川等の整備促進を要望してまいります。
1-3	市民が知ることのできる情報量が少なく、急な避難指示等の理由が納得できず、どう動けば良いか判断できませんでした。パソコンやスマホを誰もが使いこなしているわけで無いため、テレビのデータ放送を改良して現状を理解できる様にしてほしい。	岡山市浸水対策行動計画において、気象情報や水位情報など避難判断に必要な情報提供の改善を行っていくこととしています。また、データ放送の改良に関しては、放送局等へ要望をしてまいります。
1-4	土木・建築・電気設備の設計チーム中には、各地区出身の職員が一人／地区はいる（特に土木）体制で計画を進めてほしい。	設計にあたっては、地域の実情や地元の意見を十分反映させて進めてまいります。
1-5	今までのパブリックコメントを見ると計画（案）を作成した人が募集・検討を行っており、たいがいの意見ははじかれている。他の人が意見のどの部分を採用するかを検討すべき。	ご提案いただいたパブリックコメントについては、学識経験者など第三者の意見を聞きながら本計画に反映させていただきまます。

2-1	「4-5-1 市・市民・事業者の役割分担」について、それぞれの役割分担については今回の被害等を踏まえて一層踏み込んだ内容を期待する。	本基本計画の改訂に伴い、具体的な施策を記載した行動計画も改訂予定で、行動計画の中では役割分担や今後の計画等をさらに分かりやすく、明確にしていまいります。
2-2	浸水対策については、財政的な制約等もあることからもっと IoT や AI を活用したソフトやハード対策をお願いしたい。	今後、技術開発の動向や他都市の先進事例を注視し、先端技術の採用を検討してまいります。
3-1	豪雨が予想される場合の農業用水のあるべき水位を検証し、近年の気象状況にあった水位調整が実施されるよう強く関係各所へ申し入れるべきである。	予測可能な豪雨における用水路の事前水位調整について、引き続き地元水利権者を始めとする関係者との調整を行ってまいります。
3-2	「岡山市浸水対策基本計画」が多くの市民に周知されるよう徹底し、平成 30 年 7 月豪雨を経験した今こそ、市民の浸水対策への関心を深め、「自助」「共助」をより強く求めるべきである。	ハザードマップの充実等、市民の防災に関する意識向上やいざというときの避難行動等に効果的な防災情報を発信し、市民自らによる自助・共助の必要性が十分に認識されるよう努めてまいります。
4-1	迅速で正確な情報把握、検証時のデータ採取、安全な避難を目的とした主要農業用水へのオンライン水位計を整備してほしい。	浸水時の迅速で正確な情報把握を行うことは重要であり、浸水対策上必要な箇所への情報収集機器の設置について検討してまいりたいと考えています。
4-2	団地には高齢者世帯が増加しているため、浸水計を整備して用水の水位状況を迅速に把握し、IT 等により省力化した水門の迅速管理へ発展してゆくことを切に要望する。	浸水時の迅速で正確な情報把握を行うことは重要であり、浸水対策上必要な箇所への情報収集機器の設置を検討してまいりたいと考えております。 また、今後技術開発の動向や他都市の先進事例を注視してまいります。
5-1	本計画の策定にあたり、町内会等で行き届くことができる内容をもう少し具体的に記載してほしい。	本基本計画の改訂に伴い、具体的な施策を記載した行動計画も改訂予定で、行動計画の中では役割分担や今後の計画等をさらに分かりやすく、明確にしていまいります。

5-2	10 台前後の車が土嚢の回収に使用可能で、備蓄用のプレハブ倉庫が設置でき、広域の避難場所へ高齢者等を輸送する起点として利用可能な市有地等があれば、町内会に貸し付けることができるような仕組みを期待している。	全ての町内会に土のう配布等の用地を市で確保することは困難なことから、町内会において用地の確保をお願いします。ただし、今後の使用目的が定まっていない未利用の市有地がある場合は、個別にご相談ください。
6-1	当内尾地区の浸水被害の主原因となる内水氾濫は、有効な対策が打たれていない為、繰り返し発生しかつ深刻化している。どのような原則的な対策（河川、下水道、その他、ソフト対策）も、対象エリアと具体的な対策が関連付けして実施するからこそ、評価・見直しできるのであるから、基本計画書には行動計画書への落とし込みをどのようにするか決めておかなければならないと考える。従って、まずは「すべての浸水被害発生場所に対して、原因調査と有効な対策は何か、について検証・検討する。有効な対策について、必要な費用・必要な時間を考慮し、適切な対策を選択実施する。」ことを基本方針とすべきである。{4-1 基本的な考え方}	ご意見につきましては、修文の参考にさせていただきます。 【修文案】 4-1 基本的な考え方 ・・・。 そこで、 <u>浸水被害の発生状況やその原因</u> 、財政状況、既存施設の能力、都市開発の動向等を考慮し、ハード対策、ソフト対策を含めた <u>総合的な浸水対策により、段階的に整備水準を</u> ・・・
6-2	さまざまな一般論的対策が立案されているが、列挙しているだけでは、真に有効ではない。それぞれの地区に発生した浸水状況の検証を行い、適切な対策を採用することが重要である。前項のとおり、「当該住民に適切な対策を知らしめ、かつ理解を得て、必要な市と住民の役割の協働・分担を決めて実施していく。」以上を記されたい。{4-5 浸水対策のあり方}	本基本計画の改訂に伴い、具体的な施策を記載した行動計画も改訂予定で、行動計画の中では役割分担や今後の計画等をさらに分かりやすく、明確にしていきたいと思います。

6-3	<p>降雨規模を、時間当たりの降雨量だけで考えるのは、過去例から考えて、適切でない。もっと小さい時間降雨量であっても、《24 時間雨量、48 時間雨量がそれぞれ、有る数値を越えた場合（例えば x x mm と y y mm）にも、それも対象とする。》と考える。過去例を 10 年と言わず、昭和時代にまで遡れば、72 時間雨量をも検討する余地は有る。{4-2 対象とする降雨規模}</p>	<p>浸水対策レベルの目安として、対象とする時間降雨を記載していますが、この度の平成 30 年 7 月豪雨のような時間降雨は小さいが継続時間が長い降雨に対しても流域対策等を含めて検討してまいります。</p>
6-4	<p>妹尾川芳とう園横の興除用水が運んだ雨水は、足守川からの取水を止めていると聞いたにも拘わらず、想像を超える水量が継続していたことから、倉敷方面（東六間川等）からの放流があったとの意見が多い。これが既定の事実であるなら、《関係市町村に対し、興除用水への放流抑制することを前提に、倉敷川への放流を促進させる調整・連携が必要》と考える。{3-1 河川整備} と {3-3 排水施設の管理}</p>	<p>水位調整については、関係市や地元水利関係者との連携を深めていくことが重要であると考えています。また、県に対し用水から河川へ円滑に排水が行えるよう、河川改修の早期整備を要望してまいります。</p>
6-5	<p>P19 に「事前水位調整は・・(省略)・・水位低下まで時間がかかるため集中豪雨には対応できない」とあるが、大雨に関する気象情報を前日には予め入手できるので、事前水位調整を開始する事はできると考える。当然専門的見地から、どの程度の水量を流せば、水位調整が何時間で完了するか、計算値を農業関係者等に示すのが必要なことと思う。以上から、《大雨（集中豪雨）には、きめ細かい事前の活動及び早期の樋門操作等により対応する事が必要である。》と記されたい。{3-3 排水施設の管理}</p>	<p>岡山市浸水対策行動計画において、既存排水施設の機能・操作性向上や関係者との連携を引き続き強化していくこととしています。</p>

<p>6-6</p>	<p>事前の水位調整であるが、当内尾地区の排水生命線である、丙川（過去妹尾川へも排水していたが、現在は不透明と聞く）は県の排水機場であり、用水路の水位調整は、市の委託により農業関係者が行っていると聞いている。当地でも事前の水位調整が行われていると聞いているが、情報を伝達するシステムは、精緻に構築されているか？ 水位調整を実施するタイミングは十分早いか、人手は足りているか、事前水位調整量は明確か等、問題が多いのではないか？ そこで、ソフト・体制面の強化として、以下をコメントする。《岡山市は、県との連携も含め、専門的見地及び行政的見地から、関係者に対し指導・助言を行い、水位調整の実施状況を把握する事を務める。》と記されたい。{3-3 排水施設の管理}</p>	<p>岡山市浸水対策行動計画において、県との連携や状況把握など強化していくこととしています。</p>
<p>6-7</p>	<p>事前水位調整の継続・拡充とあるが、このままの施策では、7月豪雨レベルの大雨時、浸水被害が再発するので、《事前水位調整の継続・拡充をより一層推進する》と記されたい {3-6 浸水対策の方向性}</p>	<p>岡山市浸水対策行動計画において、その他の各種対策と併せて、引き続き水位調整の推進にも取り組んでいくこととしています。</p>
<p>6-8</p>	<p>当内尾地区は、平成30年7月豪雨での浸水地域として朱塗りされている（P11 参照）が、{5-1-2 下水道整備の推進}では、対象となる地区名として挙がっていない。又下水道整備を進める区域（青色）にも含まれていないことから、浸水常襲地区としても認識されていないと推測できるのは、真に遺憾。従って、横井、津島地区同様、《内尾地区（宇野線北側地区）も今後の整備方針を検討します。》と記されたい。{5-1-2 下水道整備の推進}</p> <p>私見であるが、興除用水（通称妹尾川）に底樋を付け当地区の排水を妹尾排水区へ連絡することは可能ではないか。</p>	<p>重点地区以外の浸水常襲地区においては、一般市街地として河川・下水道整備と流域対策を合わせることでおおむね10年に1度程度の降雨に対し浸水被害を極力防止することとしています。</p>

<p>6-9</p>	<p>当地区は、まず道路が冠水して道路機能が失われ、その後、何の情報も得ることなく、床下浸水へと推移している。その後、突然に避難勧告（H23）、避難指示（H30）が出されたことから、避難準備する余裕がなく、苦慮している。興除用水の大用水への分岐点付近に、水位計を設置し、関係住民が最低限個人レベルとして知りえる情報として、簡便となる SNS 等で“水位値”を提供してもらいたい。妹尾崎泉水樋門付近に水位計を設置していると聞いているので、併せて提供してもらえば、信頼度がさらに向上する。《地域が必要とする水位等の情報を積極的に提供する。》と明記されたい。{5-4 避難対策}</p>	<p>岡山市浸水対策行動計画において、気象情報や水位情報など避難判断に必要な情報提供の改善を行っていくこととしています。</p>
<p>6-10</p>	<p>P26 にある「豪雨が予想される場合に限り、あらかじめ水量を調整する事で・・(以下略)」とあるが、これは誤解される表現ではないか？ 豪雨という言葉の用法は、大雨の結果、災害が発生した時、豪雨と言ったりするケースが多いので、大雨の方が適切ではないか。</p>	<p>「豪雨が予想される場合」とは「大雨により災害が予想される場合」にあたるものと考えています。</p>